



「日本僑俘遣返之地」 日本遺留民送還の地 老背包旅行者

今年は、葫蘆島から日本人遺留者が帰還開始してから 80 周年になります。実に 105 万 1047 名もの方々が祖国の地を踏みました。

叔母一家（父、母、女、男）は遼寧省興城で裕福な暮らしをしていました。父親は現地召集戦死、残された家族は終戦で過酷な収容所生活に。生前、叔母は使用人だった中国人に助けられ、飢え死にせずに帰還できたと感謝しておりました。

2008 年に旧満州地方を旅行した時、興城旧市街と葫蘆島市政府が建立した送還記念碑を訪ねました。



上：碑前にて 下：引揚棧橋跡地方面遠望

この記念碑は、中国の歴史的偉業を記しただけでなく、日中友好が次世代まで引き継がれ、再び悲惨な戦争が起こらない様にとの願いを込めて建立されたものです。碑の裏面に中国語と日本語で碑文が刻まれていました。

「日本僑俘遣返之地」碑の背面日本語碑文

紀元 1945 年 8 月 15 日、日本政府は無条件降伏を宣言して中国人民抗日戦争は全面的な勝利を収めた。当時中国在留の日本居留民と日本捕虜は 394 万人である。そのうち、東北地区にいる日本居留民と捕虜は 145 万人である。1945 年 9 月「ポツダム宣言」の精神に基づいて米国、ソビエト、中国共産党、国民党三国四方が日本居留民と捕虜送還について協議を行い、原則的にすべての在中国日本居留民と捕虜を継続的に日本に送還する。翌年の 2 月に送還作業が開始し、東北各地に在留する日本居留民と捕虜を次々と葫蘆島港に集中し、ここから乗船して帰国の第一歩が始まった。かつて日本侵略者に虐殺・略奪された中国人民は徳をもって恨みに報ゆ送還された日本人居留民と捕虜に人力、物力、財力上で私心のない協力を払った。特に、葫蘆島人民は送還事業が順調に進行と完成に巨大な努力を払った。

1946 年の 5 月 1 日より 1948 年 9 月 20 日まで、日本居留民と捕虜を 1,051,047 人送還した。歴史はここで日本の中国侵略の実際に終止符を打てた。ここでも中国人民の寛容と善意は人道主義の霊碑を立てた。多くの日本人居留民と捕虜は葫蘆島を再生の地とみなす。60 年が過ぎ、その時の罪惡な戦争が中日両国人民に蒙った罪は警鐘になった。前のことを忘れず、後世の師とする。歴史を鑑として未来に目を向ける。悲劇の歴史の再演を許さない。衷心より中日友好が世代代に続くことを期待する。

葫蘆島市人民政府 二〇〇六年六月 建



10 月 4 日(日) 富谷宿「街道まつり」 出店します

富谷市のしんまち地区で開催される「街道まつり」に、「上海邨」さんの協力のもと、焼き小籠包などを販売します。 **来てね！**

熊本地震被災地支援で寄付

(公社) 日中友好協会を通じて、熊本県日中友好協会に義援金 30,000 円を寄付しました。

一日も早く、元の生活に戻られますようお祈りいたします。